

皆様いかがお過ごしでしょうか？

今年も残すところわずかとなりましたね。大掃除の時期となりました。

毎日のお掃除や片付けに洗剤は欠かせないものですが、

皆さんはどのように使い分けているのでしょうか？

今回は、知っているようで知らない洗剤の「適材適所」とその使い方をご紹介します。



【住まい用洗剤の種類】

最近ではマルチクリーナーのように、ひとつで万能に使える商品もありますが、やはり汚れの種類に合った洗剤が最適です。その種類と、機能性(落とす力)の違いは次のようなものです。

★中性

中性洗剤は材質を痛めにくいのが特徴で、軽い汚れに向きます。たとえばトイレ用でも、便器や便座の軽い汚れ、床や給水管の汚れやホコリには中性タイプを。浄化槽への影響もありません。

★アルカリ性

次亜塩素酸ナトリウムが主成分で、レンジのこびりつきや換気扇のガンコな油汚れなどを強力に分解して落とします。キッチン用漂白剤(塩素系)や、カビ取り剤などもあります。

★弱アルカリ性

一般住居用洗剤、ガラスクリーナー、排水パイプ用クリーナーなどがこれにあたります。比較的軽い油汚れや広範囲な汚れを落とします。

★弱酸性

クエン酸やリンゴ酸などを配合しており、普通の洗剤では落ちにくい石けんカスや脂肪分を落とすことから、浴室用に適しています。

★酸性

トイレ用洗剤が代表的。主成分である塩酸が、人体から出る特殊でガンコな汚れ(タンパク質や有機物)を強力分解・洗浄します。便器の内側についた黄ばみにも効果を発揮します。

【使い方の注意点】

洗剤を使用する際にもっとも気をつけなくてはならないのは、漂白剤やカビ取り剤などの塩素系と酸性タイプは絶対に混ぜて使わないこと。

「まぜるな危険」と表示されているタイプです。

有毒な塩素ガスが発生して呼吸困難を引き起こしたり、場合によっては命に関わることもあります。

これらは混ぜなくても、トイレなど狭い場所で同時に使うことも止めましょう。

同じ掃除道具を使うのも、成分が残っていると危険です。そして、どの成分の洗剤でも、表示されている標準使用量を守る。濃い液を使っても、洗浄力はほとんど変わりません。

むしろ材質を傷めることのほうが心配です。また、洗剤を使用する際にはゴム手袋を着用する習慣を。特に弱アルカリ性やアルカリ性の洗剤は、化学作用で油を分解するため、直接触れると手あれの原因になります。

できればメガネも着用すれば、より安心です。

★プチ雑学

●みかんは骨粗しょう症に効果アリ!?

みかんをよく食べると、骨粗しょう症を予防できることが果樹研究所などの研究でわかりました。

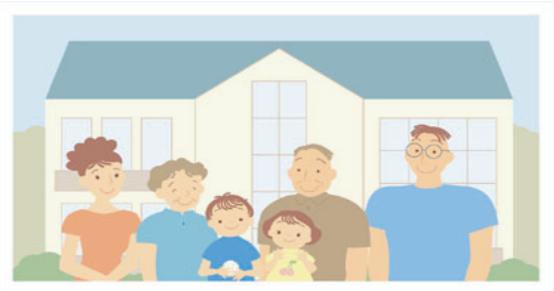
みかんを黄色くする色素であるβクリプトキサンチンが健康な骨を維持するのに有効なのだそう。

閉経後は骨密度が低下してしまうので、特に有効だといえます。温州みかんの産地、浜松市の三ヶ日町地域での研究でもみかんを多く食べる女性が食べない女性に比べ、骨密度が約2倍、高くなっていることがわかりました。

最適なのは、1日4個。

柑橘類でもみかんがβクリプトキサンチン含有量がダントツに高く、デコポンの含有量はその1/2、オレンジの含有量はその1/10なのだそう。

今年はもっとみかんを食べてみませんか？



TOYAスマイル倶楽部事務局
今治市玉川町中村甲677-7
有限会社十弥工務店内
TEL (0898)36-8182
FAX (0898)36-8183
E-mail : toya-info@toya.co.jp